

昨年度のアンケート結果

- ・ 家族も意思決定が困難な場合や家族が非協力的である場合の事例を聞いてみたい
- ・ ACPの取り組むべき時期などについて医療介護従事者以外の一般の方々はどう考えているのか知りたい
- ・ ACPの現場に置いて、支援対象となったご家族に、御本人が亡くなられた後のお気持ちを聞ける機会がほしい
- ・ 海外の取組事例について日本と比較しながら聞いてみたい。（緩和ケアが進んでいる国等）
- ・ 若年や小児、生産年齢の方など様々な種類のACPについて話を聞きたい。
- ・ 支援者としてパターンリズムに陥っていないかどうかというところはすごく大きな悩み。
- ・ 病院の中でも取組を推進していきたいがどのように進めていけばよいかわからない。実績のある施設などの話を聞きたい。
- ・ 包括の立場として健康な地域住民にも啓発していきたい。マイナスなイメージにならずに取り組めるような方法を知りたい。
- ・ 認知症の事例についてもっと理解を深めたい。
- ・ 意思決定能力の評価や意思決定支援のプロセスについてもっと詳しく聞きたい。
- ・ わたしの思い手帳の具体的な活用事例を聞きたい。

受講者自身ACPの必要性を感じてはいるが、手探りのような状況である。本人がお亡くなりになる局面に向かって寄り添っていく支援についてみな悩みや葛藤、難しさを抱えているようなアンケート回答が多く見受けられた。

カリキュラムの方向性（案）

(1) 令和2年度及び令和3年度の研修動画をバックナンバーとして公開

⇒より多くの事例や講義に触れられるようにし、学びの機会を確保する。

(2) 令和3年度に引き続き、事前講義、事例発表、パネルディスカッションの構成を継続して実施する。

⇒グループワークは令和5年度からとし、今年度は継続してACPの取組についてより広めていけるようウェビナー形式での開催とする。

(3) 事前講義としては、「ACPの基礎知識」に加えて複数の講義を実施する。

⇒案としてはアンケートを参考に「パターンリズム」「地域でのACP啓発の取組」「病院・施設でのACPの推進」をキーワードに検討する。